

令和 7 年版

消 防 年 報



津 幡 町 消 防 本 部

は し が き

この年報は、津幡町の消防業務の現況と令和7年中の諸統計を収録し、将来の参考に資するとともに、消防事情を広く一般に紹介するために編集したものです。

過去の貴重な経験を活かし、快適で安全・安心を実感できるまちづくりを推進するため、関係者各位の一層のご理解とご指導をいただければ幸いと存じます。

令和8年7月

津幡町消防本部

目 次

津 幡 町 の 概 要 と 町 勢	1
津 幡 町 の 消 防 の あ ゆ み	3
消 防 組 織	15
消 防 の 経 費	21
予 防 関 係	23
通 信 ・ 装 備 関 係	30
火 災 統 計	34
救 急 救 助 統 計	39
消 防 団 関 係	45
そ の 他	48

津 幡 町 の 概 要 と 町 勢

津幡町は石川県のほぼ中央に位置し、県都金沢市の北に隣接しています。古くから加賀、能登、富山県への分岐点として、重要な役割を果たしてきました。

町の面積は110.59平方キロメートルで、東部には低い丘陵性山地が連なり、谷間の土地が枝状に発達、西部には幅2～3キロメートルの平坦地が広がり、県内最大の潟である河北潟に続いています。

町の中央には、本州有数の規模を誇る県森林公園、西南部には日本海側最大級の漕艇競技場を備える河北潟、東部の富山県との県境には、倶利伽羅源平合戦「火牛の計」でも知られる倶利伽羅峠があります。

昭和45年以降、毎年1%前後の緩やかな人口増を続けてきましたが、平成に入ってから増加傾向が加速しましたが、令和2年に初めて減少に転じました。現在の人口は3万7千人超となっています。

所 在 地	津幡町字加賀爪ハ109番地1
-------	----------------

位 置	東経 136° 43′ 55″
	北緯 36° 40′ 02″

面 積	110.59km ²
-----	-----------------------

人 口	男 18,352 人 女 19,087 人
	計 37,439 人

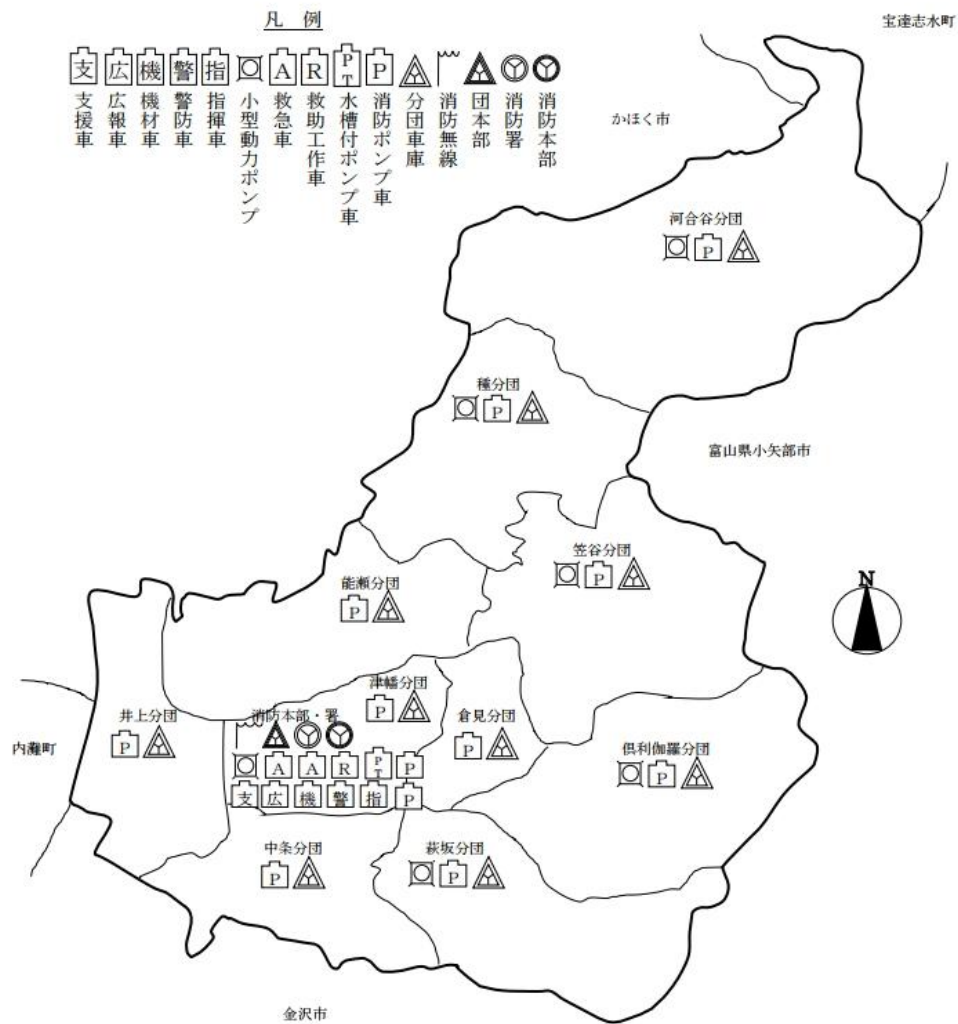
世 帯 数	15,517 世帯
-------	-----------



(R8.4.1 現在)

津幡町全図

津幡町全図



消防本部（署）庁舎の概要



敷地面積	3, 130. 130 m ²
建築面積	825. 272 m ²
建築延面積	2, 120. 031 m ²
構 造	鉄骨造 3 階建
建築年月	平成 7 年 3 月
改修年月	令和 5 年 3 月

津 幡 町 の 消 防 の あ ゆ み

年 月 日	あ ゆ み
S 30. 6. 1	旧津幡町、中条村、井上村、英田村、笠谷村、河合谷村、町村合併に伴い津幡町消防本部、署を普通消防ポンプ車 1 台、消防職員 6 名で発足する。
S 32. 1. 21	津幡町消防団団長に矢田富雄氏が就任
S 32. 2. 1	俱利伽羅村合併、消防職員 1 名増員、旧俱利伽羅村の消防団、2 ヶ分団を編入し、10 分団、ポンプ自動車 10 台、団員 217 名となる。
S 32. 4. 1	常勤署長及び消防士 1 名採用、消防職員 8 名
S 32. 5. 1	消防士見習いの昇格による 1 名増員、消防職員 9 名
S 32. 12. 25	消防署に小型ポンプ（芝浦）購入配備
S 35. 1. 21	津幡町消防団団長に上宮八郎氏が就任
S 36. 3. 30	本部署に火災専用電話が設置される。
S 36. 8. 25	消防署に小型ポンプ（芝浦）購入配備
S 37. 7. 21	森田ポンプより萩坂分団車購入配備
S 37. 8. 28	日本機械より津幡分団車購入配備
S 37. 12. 7	本部署に救急車 1 台購入配備
S 38. 4. 6	専任署長辞任同日付をもって、消防団長が非常勤消防署長を兼任し消防職員 8 名となる。
S 38. 9. 23	森田ポンプより俱利伽羅分団車購入配備
S 39. 8. 31	本部署に森田ポンプより普通ポンプ自動車購入配備
S 39. 10. 7	町役場職員 19 名兼任による消防協力隊が結成される。
S 39. 12. 22	津幡町字清水チ 321 番地に本部署庁舎新築移転業務開始
S 40. 2. 1	津幡町消防団団長に岩井重信氏が就任
S 40. 4. 1	政令第 16 号の規定に基づき消防本部並びに消防署設置の政令指定される。 消防士 1 名採用、消防職員 8 名
S 40. 8. 1	長野ポンプより笠谷分団車購入配備 署に小型ポンプ（芝浦）1 台購入更新配備
S 40. 12. 24	長野ポンプより水槽付ポンプ車 1 台購入配備
S 41. 3. 3	消防長庁官より消防表彰規定により表彰旗を授与される。
S 41. 4. 1	消防署協力隊解散消防士 2 名採用、消防職員 10 名となる。
S 41. 7. 29	森田ポンプより種分団車購入配備

年 月 日	あ ゆ み
S 42. 4. 1	消防士 1 名採用、消防職員 11 名となる。
S 42. 4. 5	消防士 1 名採用、消防職員 12 名となる。
S 42. 6. 23	石川県より本部署に救急車（トヨタ）譲与される。
S 42. 8. 1	東京発動機より小型ポンプ（トーハツ）購入、署 2 号車に搭載
S 42. 8. 8	長野ポンプより井上、倉見分団車（トヨタ）2 台購入配備
S 43. 4. 1	消防士 2 名採用、消防職員 14 名となる。
S 43. 8. 8	長野ポンプより中条分団車（トヨタ）購入配備
S 43. 9. 13	本部に消防用自動 2 輪車（赤バイ）1 台購入配備
S 43. 11. 25	本部に消防用無線基地局 1、移動局 2、携帯局 3 局が装備される。
S 44. 3. 27	消防団員定数条例改正 164 名となる。
S 44. 7. 1	津幡町消防団団長に久世嘉太郎氏が就任
S 44. 8. 7	長野ポンプより能瀬分団車購入配備
S 44. 12. 1	消防長に竹田常雄が就任
S 45. 4. 1	消防士 1 名採用、消防職員 15 名となる。
S 45. 10. 1	消防士 1 名採用、消防職員 16 名となる。
S 45. 12. 1	消防士 2 名採用、消防職員 18 名となる。
S 45. 12. 25	長野ポンプより軽化学車 1 台購入、署に配備
S 46. 4. 1	消防長事務取扱に吉田芳孝助役が就任 消防士 1 名採用、消防職員 19 名となる。
S 46. 10. 15	本部に指令車（トヨタ）購入配備
S 47. 12. 25	本部に消防用無線移動局 1 増設される。
S 48. 3. 20	消防団員定数条例改正 165 名となる。
S 48. 8. 1	河北郡内 5 町間に火災に対する相互応援協定を結ぶ。
S 48. 9. 20	東京発動機より、小型ポンプ（トーハツ）購入、署 2 号車に搭載 石川トヨタより救急車（トヨタ）購入、署に配備
S 48. 11. 9	日本損害保険協会より普通消防ポンプ自動車（トヨタ）が寄贈され、署に配備
S 49. 10. 9	石川県林野火災防備訓練が森林公園内にて実施される。
S 50. 10. 1	消防士 2 名採用、消防職員 21 名となる。
S 51. 1. 5	消防長事務取扱に矢田剛町長が就任
S 51. 4. 16	2 号車を機材車に改造、消防署配備
S 51. 8. 12	長野ポンプより津幡分団車（トヨタ）購入配備

年 月 日	あ ゆ み
S 52. 9. 13	長野ポンプより萩坂分団車（ニッサン）購入配備
S 52. 12. 5	本部庁舎新築落成、加賀爪ニ 3 番地の 7 に移転、業務開始 本部署に消防救急指令装置 1 台（病院標示盤付） 分団召集無線制御サイレン吹鳴装置一式 テレビ監視装置（ビデオデッキ内设） 自動気象観測装置（5 観測） テレホンガイド（10 回線実装可能）が設置される。
S 53. 1. 1	本部に予防課、警防課の 2 課を置く
S 53. 3. 8	津幡町消防団団長に由雄寛吉氏が就任
S 53. 4. 1	消防士 2 名採用、消防職員 23 名となる。
S 53. 8. 1	長野ポンプ車より倶利伽羅分団車（トヨタ）購入配備
S 54. 3. 30	種分団格納庫新築
S 54. 4. 1	消防士 1 名採用、その他の職員 1 名採用、消防職員 24 名となる。
S 54. 7. 1	消防長に広瀬久一が就任
S 54. 8. 13	森田ポンプより消防本部署に屈折はしご付消防自動車購入配備
S 54. 8. 30	長野ポンプより河合谷分団車（トヨタ）購入配備
S 54. 10. 11	石川県防災総合訓練が、津幡高校前広場を主会場に開催される。
S 54. 11. 11	津幡ライオンズクラブより救急救助用固定マジックギブス及びポートパワー一式寄贈される。
S 55. 7. 30	長野ポンプより、笠谷分団車（トヨタ）購入配備
S 55. 8. 25	日本船舶振興会より広報車（トヨタ）が寄贈され、消防本部に配備
S 55. 8. 30	能瀬分団格納庫新築
S 56. 1. 28	日本自動車工業会より、救急車 B2 型（ニッサン）が寄贈され、消防署に配備
S 56. 3. 25	消防団員定数条例改正 166 名となる。
S 56. 7. 30	長野ポンプより種分団車（ニッサン）購入配備
S 57. 2. 18	石油貯蔵施設立地対策等交付金事業として消防本部に救助工作車購入配備（日野）
S 57. 4. 1	消防士 3 名採用、消防職員 27 名となる。
S 57. 7. 15	長野ポンプより、井上分団車（トヨタ）購入配備
S 57. 11. 5	中条分団格納庫新築
S 57. 12. 1	県内共通波無線固定局設置
S 58. 3. 14	分団召集サイレン吹鳴装置取替工事完備

年 月 日	あ ゆ み
S 58. 5. 22	第 34 回全国植樹祭消防警備
S 58. 7. 22	長野ポンプより倉見分団車（トヨタ）購入配備
S 58. 10. 19	河合谷分団格納庫新築
S 58. 10. 21	日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車（日野 KFP172）が寄贈され 消防署に配備
S 59. 5. 26	石川県消防長 OB 会総会津幡町で開催
S 59. 8. 3	長野ポンプより中条分団車（トヨタ F J）購入配備
S 59. 10. 26	山之内製薬株式会社より、救急車（ニッサンキャラバン 2B 型）が寄贈される。
S 59. 11. 3	津幡町合併 30 周年記念式典
S 59. 11. 26	萩坂分団格納庫改築
S 60. 8. 8	長野ポンプより能瀬分団車購入更新配備
S 60. 12. 13	津幡町消防団団長に鍛冶秀雄氏が就任
S 61. 2. 27	石油貯蔵施設立地対策等交付金事業として消防署に普通ポンプ自動車（トヨタ）購入更新配備
S 61. 4. 1	消防長に鉢木章が就任
S 61. 11. 21	日本防火協会より、津幡町婦人防火クラブ連絡協議会に防火号が寄贈され、消防本部に配備
S 62. 10. 13	消防指令車更新配備
S 62. 11. 8	河北郡消防訓練場（川尻）竣工記念式
S 62. 11. 20	デジタル風向、風速、温湿度計整備される。
S 63. 4. 1	消防長に長谷川重治が就任
S 63. 7. 7	長谷川重治消防長死去、7 月 9 日寺尾光現寺で津幡町職員合同葬がとり行われる。 消防長事務取扱に焼田金助役が就任
S 63. 7. 10	つばた町制 100 年記念式典
S 63. 7. 30	自主防災育成事業として、婦人防火クラブ員用法被、ヘルメット、標的、協議会旗他を整備、 記念事業としてふれあい広場で第 1 回津幡町婦人防火のつどいを開催する。
S 63. 11. 6	自治体消防発足 40 周年記念消防職団員慰霊法要が、弘願寺で取り行われる。
H 元. 2. 7	津幡分団格納庫移転新築（木造 2 階建）
H 元. 2. 10	テレガイド新機種更新 5 回線増設 12 回線となる。
H 元. 5. 16	津幡町消防本部望楼塔建替（耐錆性）
H 元. 6. 1	消防職員定数 28 名となる。
H 元. 7. 1	消防長に岩上久一が就任

年 月 日	あ ゆ み
H 元. 8. 20	町民の防火防災思想の高揚を図り、災害のない明るい町づくりを目指す第 1 回津幡町防災フェスティバルをふれあい広場にて開催する。 自主防災組織育成事業として、自治総合センターより婦人防火クラブ連絡協議会へ放送設備一式が交付される。
H 元. 11. 20	石油貯蔵施設立地対策等交付金事業として四輪駆動広報車（ニッサン）配備
H 元. 12. 19	石油貯蔵施設立地対策等交付金事業として四輪駆動救急自動車（トヨタ）配備 第 2 回津幡町婦人防火のつどい開催
H 2. 4. 1	津幡町消防団団長に中川徳二氏が就任
H 2. 8. 26	自主防災組織事業として、自治総合センターより婦人防火クラブ連絡協議会へ液晶ビジョン一式が交付される。 井上地区コミュニティ消防センター新築
H 2. 11. 30	第 2 回津幡町防災フェスティバルをふれあい広場にて開催
H 3. 8. 18	自主防災組織育成事業として、自治総合センターより婦人防火クラブ連絡協議会へ 119 番通報訓練装置が交付される。
H 3. 9. 8 ～11	第 46 回国民体育大会消防警備
H 3. 10. 1	消防長に宮崎利広が就任
H 3. 12. 10	倉見地区コミュニティ消防センター新築
H 3. 12. 12	油圧式救助資機材購入配備
H 3. 12. 25	消防団員公務災害防止対策推進事業として各分団へ防火衣配備
H 4. 3. 29	長野ポンプより津幡分団車（トヨタ）購入配備
H 4. 4. 28	河北郡防火協会が発足
H 4. 7. 16	中条分団車庫増改築
H 4. 8. 5	石川県総合防災訓練が津幡町にて開催される。
H 4. 11. 29	倶利伽羅地区コミュニティ消防センター新築
H 5. 2. 14	萩坂分団車（三菱）更新配備
H 5. 4. 1	消防職員定数 33 名となる。
H 5. 8. 17	水槽付消防ポンプ車（日野）更新、消防本部に配備（日本損害保険協会寄贈）
H 5. 10. 13	消防庁舎移転新築工事開始
H 5. 10. 26	救急自動車（ニッサン）消防本部に配備（金沢医科大学寄贈）
H 5. 10. 31	第 3 回津幡町防災フェスティバルを福祉センターにて開催（日本防火協会共催）

年 月 日	あ ゆ み
H 5. 11. 24	俱利伽羅分団車（三菱）更新配備
H 6. 2. 20	萩坂地区コミュニティ消防センター新築
H 6. 4. 1	消防士 2 名採用、消防職員 30 名となる。
H 6. 10. 30	平成 6 年度津幡町母と子の防火のつどいを津幡町福祉センターで開催（日本防火協会共催）
H 6. 11. 7	河合谷分団車（三菱）更新配備
H 7. 1. 18 ～23	阪神・淡路大震災に災害応援のため第 1 次派遣隊出向（4 名）
H 7. 1. 22 ～24	阪神・淡路大震災に災害応援のため第 2 次派遣隊出向（4 名）
H 7. 3. 24	津幡町消防本部新消防庁舎落成 消防署に通信指令室設置 緊急通信指令システム稼働
H 7. 4. 1	消防士 4 名採用、消防職員 32 名となる。 消防庁舎内にトレーニング機器設置（寄贈・50 点）
H 7. 9. 18	消防職員定数 35 名となる。
H 7. 10. 8	第 4 回津幡町防災フェスティバルを福祉センターにて開催（日本防火協会共催） 三交替制勤務体制試行
H 7. 12. 1	消防本部訓練塔完成
H 7. 12. 14	高規格救急自動車（いすゞ）購入配備
H 8. 2. 6	笠谷地区コミュニティ消防センター新築
H 8. 3. 4	津幡町災害備蓄庫を消防庁舎敷地内に新築
H 8. 3. 13	井上分団車（いすゞ）更新配備
H 8. 3. 20	笠谷分団車（いすゞ）更新配備 種分団車（三菱）更新配備 緊急災害用飲料水浄化装置購入配備
H 8. 3. 25	津幡地内に耐震性貯水槽（100 m ³ ）完成
H 8. 3. 26	1 本部 2 課 1 署 11 係となる。
H 8. 4. 1	三交替制勤務体制実施 消防士 2 名採用、消防職員 34 名となる
H 8. 8. 8	（財）日本消防協会より消防団に小型動力ポンプ付積載車及び種婦人防火クラブに軽可搬消防ポンプが交付される。

年 月 日	あ ゆ み
H 8. 11. 17	平成 8 年度津幡町母と子の防火のつどいを津幡運動公園体育館で開催
H 8. 11. 24	河合谷地区コミュニティ消防センター新築
H 9. 3. 30	町内全域（9 地区）に自主防災クラブが結成され、津幡町自主防災クラブ連絡協議会が発足する。
H 9. 4. 1	消防長に池田清一が就任 消防士 1 名採用、消防職員 34 名となる。
H 9. 8. 31	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 9. 10. 19	第 5 回津幡町防災フェスティバルを津幡運動公園体育館にて開催（日本防火協会共催）
H 9. 12. 10	署 2 号車（日野）更新配備
H 10. 4. 1	消防職員 35 名となる。
H 10. 6. 1	女性消防団員 10 名採用（消防団員定例数条例を 176 名に改正）
H 10. 8. 30	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 10. 10. 25	平成 10 年度津幡町母と子の防火のつどいを津幡運動公園体育館で開催（日本防火協会共催）
H 10. 10. 26	中条分団車・倉見分団車（いすゞ）更新配備
H 10. 11. 8	能瀬地区コミュニティ消防センター新築
H 11. 3. 26	加賀爪少年消防クラブ消防庁長官表彰受賞
H 11. 3. 30	能瀬分団車（いすゞ）更新配備
H 11. 4. 1	消防士 2 名採用、消防職員 37 名となる。 津幡町消防団団長に井上信一氏が就任
H 11. 8. 29	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 11. 9. 7	北中条地区に耐震性貯水槽（100 m ³ ）完成
H 11. 10. 17	第 6 回津幡町防災フェスティバルを津幡町福祉センターで開催（日本防火協会共催）
H 12. 3. 26	種地区コミュニティ消防センター新築
H 12. 4. 1	消防士 1 名採用、消防職員 37 名となる。
H 12. 6. 1	津幡町消防本部公式ホームページ開設
H 12. 6. 5	救助工作車Ⅱ型（日野）更新配備
H 12. 8. 27	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 12. 9. 12	津幡地内に耐震性貯水槽（100 m ³ ）完成
H 12. 10. 18	第 17 回全国消防操法大会に中条分団出場

年 月 日	あ ゆ み
H 13. 4. 1	機構改革に伴い課名変更する。 消防士 2 名採用、消防職員 38 名となる。
H 13. 8. 21	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 13. 10. 21	第 7 回津幡町防災フェスティバルを津幡町福祉センターで開催
H 13. 12. 25	指令車（トヨタ）更新配備 資機材搬送車（トヨタ）購入配備
H 14. 3. 8	30m級はしご付消防自動車（日本機械）更新配備
H 14. 4. 1	消防長に廣瀬昭良が就任 津幡町消防団長に山崎正氏が就任 消防士 2 名採用、消防職員 38 名となる。
H 14. 8. 18	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 14. 9. 11	庄地内に耐震性貯水槽（100 m ³ ）完成
H 14. 10. 21	高規格救急車（ニッサン）購入配備
H 14. 10. 27	平成 14 年度津幡町母と子の防火のつどいを津幡運動公園体育館で開催
H 14. 12. 20	中条地区コミュニティ消防センター新築
H 15. 7. 12	津幡町消防協力隊発足（消防職団員 0B 52 名）
H 15. 8. 17	津幡町防災総合訓練（英田地区、刈安地区）
H 15. 11. 9	第 8 回津幡町防災フェスティバルを津幡運動公園体育館で開催
H 16. 4. 1	消防士 3 名採用、消防職員 39 名となる。
H 16. 10. 1	消防士 1 名採用、消防職員 40 名となる。
H 16. 10. 17	第 45 回石川県防災総合訓練が津幡町にて開催される。
H 17. 8. 28	津幡町防災総合訓練（住吉公園、井上地区、緑が丘地区）
H 17. 10. 16	第 9 回津幡町防災フェスティバルを津幡町文化会館「シグナス」で開催
H 17. 12. 21	高規格救急車（トヨタ）配備（社団法人日本損害保険協会寄贈）
H 18. 4. 1	消防長に藤本広昭が就任 消防士 3 名採用、消防職員 40 名となる。
H 18. 8. 27	津幡町防災総合訓練（笠野公園）
H 19. 1. 15	2 市 2 町通信指令業務共同運用合意調印式
H 19. 3. 25	能登半島沖地震（津幡町管内被害なし）にともない緊急援助隊として救助隊派遣
H 19. 8. 26	津幡町防災総合訓練（萩野台小学校）
H 20. 1. 18	広報車（ニッサン）更新配備

年 月 日	あ ゆ み
H 20. 2. 27	2 市 2 町消防指令事務暫定共同運用開始
H 20. 4. 1	津幡町消防団長に吉田勝明氏が就任 消防士 1 名採用、消防職員 40 名 2 市 2 町消防指令事務共同運用開始
H 20. 8. 13	津幡町防災総合訓練（河合谷小学校）
H 20. 11. 24	幼年消防クラブ防火のつどいを津幡町文化会館「シグナス」で開催
H 21. 1. 1	機能別団員 5 名採用（消防団員定例数を 181 名に改正）
H 21. 4. 1	消防長に高森良昭が就任 消防士 2 名採用、消防職員 40 名
H 21. 8. 30	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 22. 4. 1	消防士 2 名採用、消防職員 40 名
H 22. 8. 29	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 23. 3. 4	高規格救急車（トヨタ）更新配備
H 23. 3. 11	東日本大震災（津幡町震度 2 観測）
H 23. 3. 12	東日本大震災災害派遣：救急隊、支援隊（岩手県九戸郡野田村）
～3. 21	（1 次隊 5 名、2 次隊 5 名、3 次隊 5 名、4 次隊 3 名、5 次隊 3 名 計 21 名）
H 23. 4. 1	消防長に國本 学が就任 消防職員定数が 46 名となる。 消防士 3 名採用、消防職員 41 名
H 23. 5. 12	津幡分団車（日野）更新配備
H 23. 8. 28	津幡町総合防災訓練（住吉公園）
H 24. 4. 1	消防長に西田伸幸が就任 津幡町消防団長に加茂川寛人氏が就任 消防士 2 名採用、消防職員 42 名
H 24. 8. 24	津幡町総合防災訓練（住吉公園）
H 25. 4. 1	津幡町防災行政無線運用開始
H 25. 4. 1	消防士 1 名採用、消防職員 43 名
H 25. 4. 4	津幡町彦太郎畠付近を震源とする地震が発生 深さ約 10 km、マグニチュード 4.3、津幡町では震度 4 を記録
H 25. 8. 25	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 26. 3. 10	水槽付消防ポンプ自動車（日野）更新配備

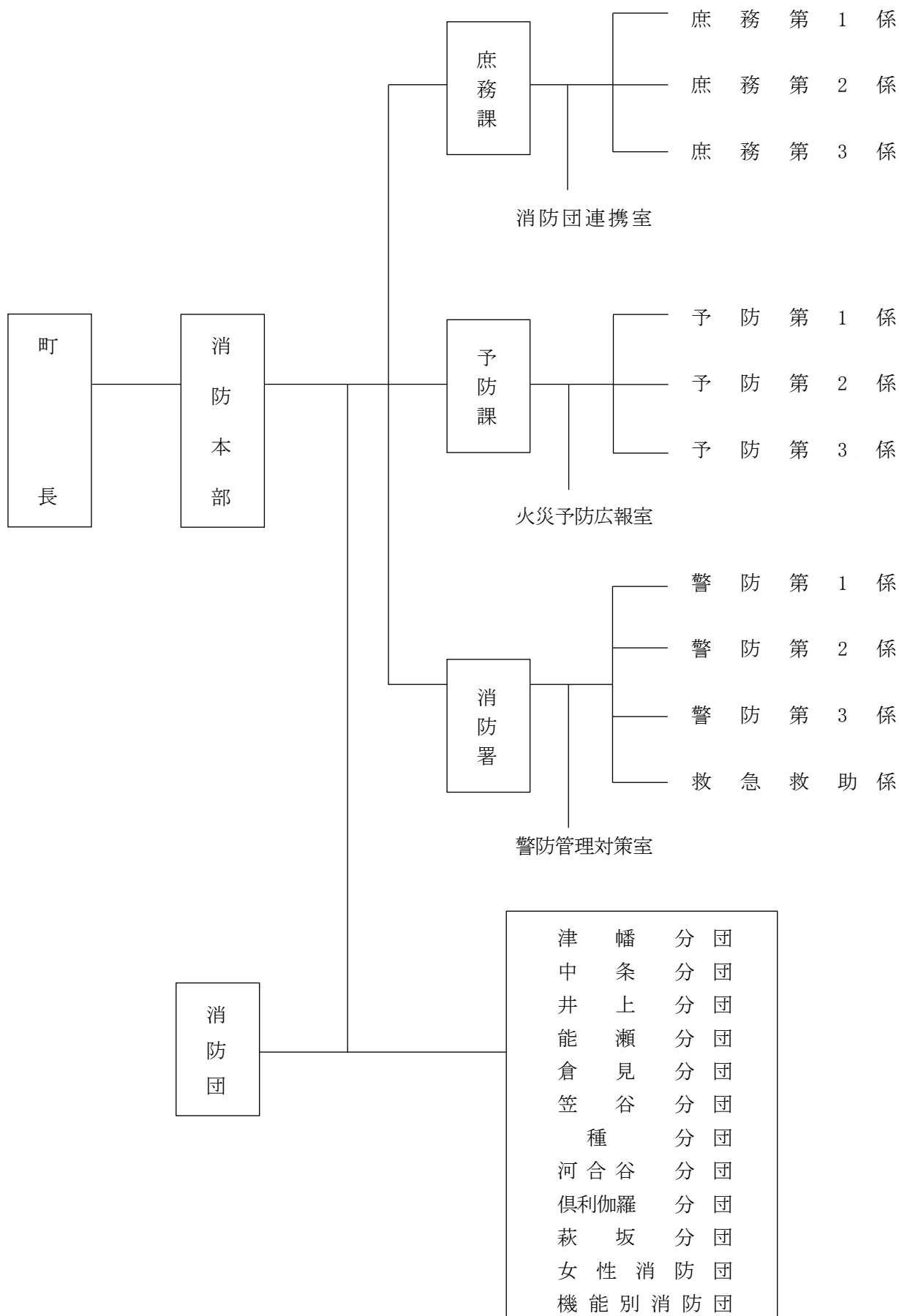
年 月 日	あ ゆ み
H 26. 3. 25	萩坂分団車（日野）更新配備
H 26. 4. 1	津幡町消防団長に田中明夫氏が就任 消防士 1 名採用、消防職員 44 名
H 26. 8. 31	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 27. 3. 30	河合谷分団車（日野）更新配備
H 27. 3. 30	倶利伽羅分団車（日野）更新配備
H 27. 4. 1	消防士 2 名採用、消防職員 46 名 消防本部機構改革により係名変更する。 庶務課 庶務係、施設係、消防係を庶務第 1 係、第 2 係、第 3 係に変更する。 予防課 予防係、危険物係、指導係を予防第 1 係、第 2 係、第 3 係に変更する。
H 27. 8. 30	津幡町防災総合訓練（住吉公園）
H 27. 11. 13	笠谷分団車（日野）更新配備
H 27. 11. 13	種分団車（日野）更新配備
H 28. 4. 1	消防救急デジタル無線運用開始
H 28. 8. 28	津幡町防災総合訓練（あがた公園）
H 28. 12. 12	中条分団車（日野）更新配備
H 28. 12. 12	井上分団車（日野）更新配備
H 28. 12. 12	倉見分団車（日野）更新配備
H 29. 2. 1	高規格救急車（トヨタ）更新配備
H 29. 3. 29	消防ポンプ自動車（日野）更新配備
H 29. 4. 1	消防長に松浦清市が就任 津幡町消防団長に七黒勇夫氏が就任 消防職員定数が 52 人となる。 消防士 2 名採用、消防職員 46 名
H 29. 7. 13	軽トラック（スズキ）購入配備
H 29. 8. 27	津幡町防災総合訓練（あがた公園）
H 30. 1. 19	津幡町「消防団応援の店」交付式 事業スタート
H 30. 7. 1	災害弱者緊急通報システム民間業者委託による新システムへ切替
H 30. 8. 26	津幡町防災総合訓練（中条公園）
H 30. 12. 3	能瀬分団車（日野）更新配備

年 月 日	あ ゆ み
H 30. 12. 13	広報車（スバル）更新配備 日本消防協会福祉増進事業（消防資機材交付事業）より交付
H 31. 3. 28	高機能消防指令システム運用開始式（2市2町消防指令事務共同運用）
H 31. 4. 1	高機能消防指令システム本運用スタート（2市2町消防指令事務共同運用）
R 元. 8. 25	津幡町防災総合訓練（中条公園）
R 元. 10. 3	救助工作車Ⅱ型（日野）更新配備
R 2. 4. 1	消防士2名採用、消防職員46名
R 2. 12. 18	指揮車（トヨタ）更新配備
R 3. 4. 1	消防長に松本聖史が就任、消防職員45名
R 3. 6. 29	金沢市・かほく市・津幡町・内灘町の消防相互応援に関する覚書 締結
R 3. 7. 8	無人航空機（ドローン）新規配備
R 4. 4. 1	消防士2名採用、消防職員47名
R 4. 6. 8	無人航空機（ドローン）追加配備 2台体制
R 5. 3. 29	消防本部庁舎改修
R 5. 4. 1	消防本部機構改革により、庶務課に消防団連携室、予防課に火災予防広報室、消防署に 警防管理対策室を新たに設置し、通信指令室および通信係を廃止する。
R 5. 5. 5	能登地方で最大震度6強の地震が発生（津幡町震度3観測） 県内消防相互応援協定に伴う応援出動（珠洲市）
R 5. 7. 12	豪雨災害（石川県に線状降水帯が発生し津幡町も被害を受ける。）
R 5. 10. 6	消防ポンプ自動車（CD-1型）が金沢市消防局から譲渡される。 （7月豪雨災害で被害を受けた笠谷分団車の代車を目的として）
R 6. 1. 1	令和6年能登半島地震（津幡町震度5弱観測）
R 6. 1. 2 ～ 3. 24	県内消防相互応援協定に伴う応援出動（能登地方） （1次隊7名、2次隊7名、3次隊5名、5次隊3名、8次隊3名、11次隊3名、 14次隊3名、19次隊3名、23次隊3名、28次隊3名 計40名）
R 6. 3. 1	高規格救急自動車（トヨタ）更新配備
R 6. 4. 1	津幡町消防団長に中川和也氏が就任 消防士1名採用、消防職員45名
R 6. 9. 21 ～10. 10	県内消防相互応援協定に伴う応援出動（能登半島豪雨：能登地方） （1次隊7名、2次隊5名、3次隊5名、4次隊5名、5次隊5名、6次隊5名、 7次隊4名、8次隊5名、9次隊4名、10次隊4名、11次隊5名、12次隊5名、

	13 次隊 3 名、14 次隊 3 名、15 次隊 3 名、16 次隊 3 名、17 次隊 3 名、18 次隊 3 名 計 77 名)
R 6. 11. 10	第 65 回石川県防災総合訓練（津幡町）
R 7. 3. 28	支援車（トヨタ）新規配備 消防団無償貸付車両（総務省消防庁）として貸与
R 7. 4. 1	消防長に高戸勇一が就任 消防士 2 名採用、消防職員 44 名 女性消防職員を初採用
R 7. 11. 17	金沢市・かほく市・津幡町・内灘町・白山野々市広域事務組合消防通信指令事務共同運 用に係る基本的事項に関する合意書調印式
R 8. 4. 1	消防長に山崎明人が就任 消防士 3 名採用、消防職員 45 名

消 防 組 織

(1) 機 構



(2) 消防本部事務分担

庶務課

係 名	分 担 事 務
庶務第 1, 2, 3 係	(1) 公印の保管に関すること。 (2) 例規の制定又は改廃に関すること。 (3) 予算、決算に関すること。 (4) 職員の人事、福利厚生規律及び服務に関すること。 (5) 職員の公務災害補償及び賞じゅつ金に関すること。 (6) 職員の研修及び教養に関すること。 (7) 文章の収受、発送及び保存整理に関すること。 (8) 消防職員委員会に関すること。 (9) 消防相互応援協定に関すること。 (10) 消防用財産の管理に関すること。 (11) 消防用自動車等の購入及び維持管理に関すること。 (12) 消防用資機材の開発及び取扱い指導に関すること。 (13) 消防地、水利に関すること。 (14) 開発行為に関すること。 (15) 消防庁舎の維持管理に関すること。 (16) 消防協会に関すること。 (17) 他の所管に属さないこと。
消防団連携室	(1) 消防団員の人事、報酬、福利厚生及び服務に関すること。 (2) 消防団員の公務災害補償及び賞じゅつ金に関すること。 (3) 消防団員の研修及び教養に関すること。 (4) 消防団員の表彰事務に関すること。 (5) 女性消防団員に関すること。 (6) その他消防団に関すること。

予防課

係 名	分 担 事 務
予防第 1, 2, 3 係	(1) 建築物の確認、許認可の同意に関すること。 (2) 消防用設備等に関すること。 (3) 予防査察に関すること。 (4) 防火管理に関すること。 (5) 電気用品取締法に係る事務及び立入検査に関すること。 (6) 危険物の規制に関すること。 (7) 危険物取扱者及び危険物施設の管理者等の指導に関すること。 (8) 危険物施設の立入検査に関すること。 (9) 液化石油ガスその他高压ガスの防火に関すること。 (10) 火薬、その他特殊物質の防火に関すること。 (11) 火薬類取締法に係る事務及び立入検査に関すること。 (12) 幼年、子ども、女性防火クラブの指導育成に関すること。 (13) 防火委員会に関すること (14) 防火協会に関すること。
火災予防広報室	(1) 火災予防広報、指導に関すること。 (2) 住宅防火対策に関すること。 (3) 特定防火対象物における防火安全対策に関すること。 (4) 防火・防災に関すること。 (5) 津幡町自主防災クラブ連絡協議会に関すること。

消防署

係 名	分 担 事 務
警防第 1, 2, 3 係	(1) 消防及び警防計画に関すること。 (2) 消防技術の指導研修に関すること。 (3) 消防訓練、消防団操法に関すること。 (4) 火災原因調査に関すること。 (5) 現場本部に関すること。 (6) 火災等り災証明に関すること。 (7) 応援出動に関すること。 (8) 災害対策の連絡調整に関すること。
救急救助係	(1) 救急業務の管理指導に関すること。 (2) 救急救助資機材の保全整備に関すること。 (3) 救急救助訓練計画に関すること。 (4) 救急救命士及び水難救助隊に関すること。 (5) 救急搬送等の証明に関すること。
警防管理対策室	(1) 警防査察に関すること。 (2) 消防水利に関すること。 (3) ドローンに関すること。 (4) 応急手当の普及啓発活動に関すること。 (5) 医療機関との連絡調整に関すること。 (6) 通信業務に関すること。

(3) 消防職員の定員と現員

令和8年4月1日現在

階級 所属	消 防 司令長	消 防 司令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	その他 職 員	計
定 員	—	—	—	—	—	—	—	52
現 員	1	11	11	9	5	7	1	45

(4) 消防職員年齢

令和8年4月1日現在

階級 年齢	消 司 令 長	消 司 防 令	消 司 令 補	消防士長	消 副 士 長	消 防 士	そ の 他 員	計
25歳未満					1	7		8
25～29					4			4
30～34				2				2
35～39				5				5
40～44			7	2				9
45～49		6	3					9
50～54		3					1	4
55歳以上	1	2	1					4
平均年齢	55	50	45	37	27	21	52	45 39

(5) 消防職員の勤務年数調

令和8年4月1日現在

階級 年数	消 司 令 長	消 司 防 令	消 司 令 補	消防士長	消 副 士 長	消 防 士	そ の 他 員	計
5年未満	1				1	7	1	10
5～9					4			4
10～14				3				3
15～19			1	5				6
20～24			8	1				9
25～29		5	1					6
30年以上		6	1					7
計	1	11	11	9	5	7	1	45

(6) 消防吏員の資格取得状況

令和8年4月1日現在

種 別 \ 階 級	計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
大型自動車運転免許	30		10	11	9		
中型自動車運転免許	2	1	1				
大型特殊車両運転免許	5		1	3	1		
消防設備士（乙種）	23		5	8	5	4	1
危険物取扱者（乙種）	36		10	11	7	5	3
予防技術資格者	22		8	5	8	1	
小型船舶操縦士（二級）	11		6	5			
無線従事者免許（無線電話乙種）	1		1				
無線従事者免許（第二級陸上特殊無線技士）	39		11	10	9	5	4
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	15		11	4			
可搬ポンプ整備資格者	1			1			
ガス溶接技能講習	1		1				
玉掛技能講習	30		11	11	8		
小型移動式クレーン運転技能講習	29		10	11	8		
車両系建設機械技能講習	4			3	1		
潜水土（労働安全衛生法による）	30		8	9	8	5	
救急救命士	25		8	9	6	1	1
救急救命士（気管挿管認定）	8		3	4	1		
救急救命士（薬剤投与認定）	15		3	8	3	1	
救急救命士（二処置認定）	15		3	8	3	1	
ドローンアドバイザー講習	1			1			

消 防 の 経 費

(1) 令和8年度当初予算の概要 (単位：千円)

区 分 \ 年 度	前 年 度	本 年 度
常 備 消 防 費	395,233	394,124
非 常 備 消 防 費	29,592	30,151
消 防 施 設 費	44,982	67,939
消 防 費 総 額	469,807	492,214

(2) 令和8年度一般会計当初予算状況 (単位：千円)

歳 入		歳 出	
区 分	金 額	区 分	金 額
町 税	4,651,151	議 会 費	147,966
地 方 譲 与 税	137,160	総 務 費	1,660,175
利 子 割 交 付 金	8,000	民 生 費	6,347,829
配 当 割 交 付 金	35,000	衛 生 費	1,343,809
株式等譲渡所得割交付金	55,000	労 働 費	18,115
法 人 事 業 税 交 付 金	65,000	農 林 水 産 業 費	730,626
地 方 消 費 税 交 付 金	900,000	商 工 費	585,897
ゴルフ場利用税交付金	17,000	土 木 費	2,264,596
環 境 性 能 割 交 付 金	3,000	消 防 費	492,214
地 方 特 例 交 付 金	78,000	教 育 費	2,024,319
地 方 交 付 税	3,870,000	災 害 復 旧 費	1,297,510
交通安全対策特別交付金	3,000	公 債 費	1,939,944
分 担 金 及 び 負 担 金	68,326	予 備 費	2,000
使 用 料 及 び 手 数 料	62,138		
国 庫 支 出 金	3,952,604		
県 支 出 金	2,081,286		
財 産 収 入	12,313		
寄 附 金	4,110		
繰 入 金	1,135,949		
繰 越 金	1		
諸 収 入	351,462		
町 債	1,364,500		
歳 入 合 計	18,855,000	歳 出 合 計	18,855,000

(3) 年度別一般会計決算額と消防費決算額の状況 (10 年分)

区 分 年 度	一 般 会 計 (千円)	消 防 費 (千円)	一般会計に対する比率 (%)	人 口 1 人 当 り の 消 防 費 (円)	1 世 帯 当 り の 消 防 費 (円)
平 成 2 8 年	12,972,292	513,407	4.0	13,649	38,005
平 成 2 9 年	12,920,389	424,412	3.2	11,282	30,584
平 成 3 0 年	13,145,437	453,493	3.4	12,060	32,244
令 和 元 年	13,992,096	519,467	3.7	13,858	36,451
令 和 2 年	21,267,967	435,908	2.0	11,629	30,162
令 和 3 年	16,954,806	430,772	2.5	11,481	31,076
令 和 4 年	16,635,029	540,749	3.3	14,466	36,493
令 和 5 年	16,799,576	477,278	2.8	12,737	31,244
令 和 6 年	19,123,499	524,976	2.7	14,005	34,310
令 和 7 年	※18,245,000	※469,807	※2.6	※12,534	※30,704

※令和7年度は当初予算額

予 防 関 係

(1) 防火対象物数

令和8年3月31日現在

防火対象物種別			防火対象物数
1	イ	劇場・映画館・演劇場	2
	ロ	公会堂・集会場	35
2	イ	キャバレー・カフェ・ナイトクラブ	
	ロ	遊戯場・ダンスホール	3
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等	
	ニ	カラオケボックス等	
3	イ	待合・料理店	
	ロ	飲食店	14
4		百貨店・マールケット	42
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	3
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	179
6	イ	病院・診療所・助産所	21
	ロ	老人短期入所施設・老人ホーム等	22
	ハ	老人デイサービスセンター・保育所等	27
	ニ	幼稚園・特別支援学校	1
7		小・中・高・大各種学校	13
8		図書館・博物館・美術館	1
9	イ	蒸気浴場・熱気浴場	1
	ロ	(イ)以外の公衆浴場	
10		車輛の停車場	3
11		神社・寺院・教会の類	33
12	イ	工場・作業場	146
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ	
13	イ	自動車車庫・駐車場	1
	ロ	飛行機等の格納庫	
14		倉庫	49
15		前各項に該当しない事業所	98
16	イ	複合用途で特定対象物のあるもの	69
	ロ	複合用途で上記以外のもの	47
計			810

(2) 工事種別建築同意・通知届出状況

令和8年3月31日現在

工 事 種 別 用 途 別			新築	増築	改築	移設	用途 変更	模様替	計
1	イ	劇 場 ・ 映 画 館 ・ 演 劇 場							
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場							
2	イ	キャバレー・カフェ・ナイトクラブ							
	ロ	遊 戯 場 ・ ダ ン ス ホ ー ル							
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等							
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等							
3	イ	待 合 ・ 料 理 店							
	ロ	飲 食 店							
4		百 貨 店 ・ マ ー ケ ッ ト							
5	イ	旅 館 ・ ホ テ ル ・ 宿 泊 所							
	ロ	寄 宿 舎 ・ 下 宿 ・ 共 同 住 宅							
6	イ	病 院 ・ 診 療 所 ・ 助 産 所							
	ロ	老人短期入所施設・老人ホーム等							
	ハ	老人デイサービスセンター・保育所等	1						1
	ニ	幼 稚 園 ・ 特 別 支 援 学 校							
7		小 ・ 中 ・ 高 ・ 大 各 種 学 校							
8		図 書 館 ・ 博 物 館 ・ 美 術 館							
9	イ	蒸 気 浴 場 ・ 熱 気 浴 場							
	ロ	(イ) 以 外 の 公 衆 浴 場							
10		車 輛 の 停 車 場							
11		神 社 ・ 寺 院 ・ 教 会 の 類							
12	イ	工 場 ・ 作 業 場	6						6
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ							
13	イ	自 動 車 車 庫 ・ 駐 車 場							
	ロ	飛 行 機 等 の 格 納 庫							
14		倉 庫	3						3
15		前 各 項 に 該 当 し な い 事 業 所	6						6
16	イ	複合用途で特定対象物のあるもの							
	ロ	複合用途で上記以外のもの							
17		重 要 文 化 財 ・ 民 族 資 料							
18		延 長 5 0 m 以 上 の ア ー ケード							
専 用 住 宅			140	1					141
併 用 住 宅									
長 屋			3						3
そ の 他			2						2
計			161	1					162

(3) 諸届出状況

令和8年3月31日現在

届 出 区 分	届出件数
火 を 使 用 す る 設 備 及 び 器 具 の 設 置 届	9
電 気 設 備 設 置 届	8
喫 煙 等 承 認 申 請 書	4
ネ オ ン 管 灯 設 備 設 置 届	
水 素 ガ ス を 充 て ん す る 気 球 の 設 置 届	
火 災 と ま ぎ ら わ し い 煙 等 の 行 為 届	45
煙 火 打 上 げ 又 は 仕 掛 届	16
露 店 等 の 開 設 届	72
少 量 危 険 物 ・ 指 定 可 燃 物 貯 蔵 取 扱 届	8
圧 縮 ア セ チ レ ン ガ ス 貯 蔵 取 扱 届	
液 化 石 油 ガ ス 貯 蔵 取 扱 届	5
毒 物 貯 蔵 取 扱 届	
水 道 断 水 減 水 届	5
道 路 工 事 届	72
計	244

(4) 過去5年間の建築届出件数

年 別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
建 築 届 出 件 数	234	225	217	245	148

(5) 過去5年間の防火対象物使用開始届出状況

年 別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
防 火 対 象 物 使 用 開 始 届 出 件 数	20	28	28	33	31

(6) 消防用設備設置状況

令和8年3月31日現在

種 別 用 途 別			自動火災報知設備	スプリンクラー	屋外消火栓	屋内消火栓	漏電火災警報器	非常警報設備	誘導灯	避難器具	消防用水
1	イ	劇場・映画館・演芸場・観覧場	2			2		2	2		
	ロ	公会堂・集会場	17			2	1	35	63		
2	イ	キャバレー・カフェ・ナイトクラブ									
	ロ	遊戯場・ダンスホール	3			1		3	4	1	
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等									
	ニ	カラオケボックス等									
3	イ	待合・料理店									
	ロ	飲食店	4					6	40	1	
4		百貨店・マーケット	29	1	2	5		13	52		2
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	4			1	1		3		
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	12			3	16		5	11	
6	イ	病院・診療所・助産所	10	2				4	22		
	ロ	老人短期入所施設・老人ホーム等	22	20			1	4	22	2	
	ハ	老人デイサービスセンター・保育所等	24			1	1	1	32	6	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	1						1		
7		小・中・高・大各種学校	13			13		5		5	
8		図書館・博物館・美術館						1			
9	イ	蒸気浴場・熱気浴場	1						1		
	ロ	(イ)以外の公衆浴場									
10		車両の停車場							1		
11		神社・寺院・教会の類	2		1	1	3	9		1	
12	イ	工場・作業場	73		12	26		3	3	1	2
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ									
13	イ	自動車車庫・駐車場	1								
	ロ	飛行機等の格納庫									
14		倉庫	19		3	7		1	2		
15		前各項に該当しない事業所	15			6	1	14	2	2	
16	イ	複合用途で特定対象物のあるもの	22	2	1	5	3	11	56	3	
	ロ	複合用途で上記以外のもの	5			2		1		1	
17		重要文化財・民族資料									
18		延長50m以上のアーケード									
計			279	25	19	75	27	113	311	34	4

(7) 危険物規制事務処理状況

令和8年3月31日現在

区 分 種 別		貯 蔵 所					取 扱 所		計
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所	
許 可	設 置		1			1	2		4
	変 更				3		2		5
完成検査	設 置		1			1			2
	変 更				3		2		5
種 類 、 数 量 変 更									0
譲 渡 、 引 渡 届									0
廃 止									0
軽 微 変 更 届 出					1		7	1	9
予防規程（制定・変更）							1		1
保 安 監 督 者 選 解 任		3			1			1	5
仮 使 用			1		2		3		6

種 別	計
仮 貯 蔵	0
仮 取 扱	3

(8) 液体危険物タンクの完成検査前検査状況

令和8年3月31日現在

水 張 検 査	水 圧 検 査				計
10K ℓ 以下	600 ℓ 以下	600 ℓ を超え 10K ℓ 以 下	10K ℓ を超え 20K ℓ 以下	20K ℓ を超えるもの	
					0

(9) 危険物施設の立入検査実施状況

令和8年3月31日現在

区 分 件 数		貯 蔵 所					取 扱 所		計
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所	
検 査 施 設 数		2	2			10	3	2	19
検 査 延 件 数		2	2			10	3	2	19

(10) 危険物許可施設の分類（完成検査済証交付施設）

令和8年3月31日現在

区 分 区 別		貯 蔵 所					取 扱 所		計
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所	
数 量 別	5 倍 以 下	10	3	1	19	9	1	15	58
	5 倍を超え 10 倍以下		1	2	9		2	8	22
	10 倍 " 50 倍以下		2		5	2		2	11
	50 倍 " 100 倍以下						1		1
	100 倍 " 150 倍以下						3		3
	150 倍 " 200 倍以下						1	2	3
	200 倍 " 1000 倍以下				2		3		5
	1000 倍 " 5000 倍以下								0
計		10	6	3	35	11	11	27	103
類 別	第 1 類								0
	第 2 類								0
	第 3 類								0
	第 4 類	10	6	3	35	11	11	27	103
	第 5 類								0
	第 6 類								0
計		10	6	3	35	11	11	27	103

(11) 危険物施設の推移

令和8年3月31日現在

年度別	区 分	製 造 所	貯 蔵 所						取 扱 所			計	事 業 所	
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク貯蔵所	屋 内 タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所			一 般 取 扱 所
令和3年度			10	6	3	34		8		11		27	99	65
令和4年度			10	6	3	36		8		11		28	102	66
令和5年度			10	5	3	34		8		11		27	98	64
令和6年度			10	5	3	35		9		11		27	100	65
令和7年度			10	6	3	35		11		11		27	103	65

(12) 手 数 料

〈許可、完成検査、タンク検査〉

令和8年3月31日現在（単位：円）

製造所等の許可、完成検査、タンク検査					
許 可 手 数 料		完 成 検 査 手 数 料	タ ン ク 検 査 手 数 料		計
設 置	変 更		水 張	水 圧	
46,000	123,500	84,750	0	0	254,250

〈仮貯蔵、仮取扱、仮使用〉

令和8年3月31日現在（単位：円）

仮 貯 蔵 、 仮 取 扱 及 び 仮 使 用			
仮 貯 蔵 手 数 料	仮 取 扱 手 数 料	仮 使 用 手 数 料	計
0	16,200	27,000	43,200

(13) 圧縮アセチレンガス等、指定可燃物等及び少量危険物の状況

〈圧縮アセチレンガス〉

令和8年3月31日現在

圧 縮 ア セ チ レ ン ガ ス 等					
圧縮アセチレンガス	無水硫酸	液化石油ガス	生石灰	毒物	劇物
8		330	1	2	2

〈指定可燃物等、少量危険物〉

令和8年3月31日現在

指 定 可 燃 物 等							少 量 危 険 物	
可燃性 固体類	石炭・ 木炭類	可燃性 液体類	合成 樹脂類	再生資源 燃料	その他	指定可燃物に 類する物品		移動 タンク
2		1	12	3	6		250	14

通信・装備関係

(1) 通信施設の設置状況

無線局設備一覧

方式	周波数に係る名称	用途	使用区域
デジタル	津幡町波 1	津幡町消防用	津幡町及び津幡町に隣接する市町の区域
デジタル	津幡町波 2	津幡町消防用	津幡町及び津幡町に隣接する市町の区域
デジタル	広域救急波	2 市 2 町救急用	2 市 2 町内
デジタル	ブロック内共通波	2 市 2 町共通 指令音声バックアップ用	2 市 2 町内
デジタル	主運用波 7	石川県内消防共通用	石川県内一円
デジタル	統制波 1～3	全国消防共通用	全国一円
デジタル	主運用波 1～6	周波数割当 各都道府県内 消防共通用	全国一円（割当都道府県内）

区分 所属	呼 出 名 称	局の種類 (W)	機 種	購入年月日	設 置 場 所
本 部 ・ 署	つばたしょうぼう	基地局 10	N E C	H28. 3. 15	消 防 本 部
	つばたしき 1	車載型移動局 10	富士通ゼネラル	〃	指 揮 車
	つばた 1	〃	〃	〃	津 幡 1 号 車
	つばた 2	〃	〃	〃	津 幡 2 号 車
	つばたきゅうじょ 1	〃	〃	〃	救 助 工 作 車
	つばたけいぼう 1	〃	〃	〃	警 防 車
	つばたきゅうきゅう 1	〃	〃	〃	救 急 1 号 車
	つばたきゅうきゅう 2	〃	〃	〃	救 急 2 号 車
	つばたきざい 1	〃	〃	〃	機 材 車
	つばたぶんだん 1	〃	〃	〃	津 幡 分 団 車
	ちゅうじょうぶんだん 1	〃	〃	〃	中 条 分 団 車
	いのうえぶんだん 1	〃	〃	〃	井 上 分 団 車
	のせぶんだん 1	〃	〃	〃	能 瀬 分 団 車
	くらみぶんだん 1	〃	〃	〃	倉 見 分 団 車
	かさにぶんだん 1	〃	〃	〃	笠 谷 分 団 車
	たねぶんだん 1	〃	〃	〃	種 分 団 車
	かわいだにぶんだん 1	〃	〃	〃	河 合 谷 分 団 車
	くりからぶんだん 1	〃	〃	〃	俱利伽羅分団車
	はぎさかぶんだん 1	〃	〃	〃	萩 坂 分 団 車
	つばたしき 1 0 2	携帯型移動局 5	〃	〃	指 揮 車 携 帯
	つばた 1 0 1	〃	〃	〃	津 幡 1 号 車 携 帯
	つばた 1 0 2	〃	〃	〃	津 幡 1 号 車 携 帯
	つばた 2 0 1	〃	〃	〃	津 幡 2 号 車 携 帯
	つばたきゅうじょ 1 0 1	〃	〃	〃	救 助 工 作 車 携 帯
	つばたきゅうきゅう 1 0 1	〃	〃	〃	救 急 1 号 車 携 帯
	つばたきゅうきゅう 2 0 1	〃	〃	〃	救 急 2 号 車 携 帯
	つばたきざい 1 0 1	〃	〃	〃	機 材 車 携 帯
	つばた 1 0 3	〃	〃	〃	消 防 本 部
	つばた 1 0 4	〃	〃	〃	消 防 本 部
	つばた 1 0 5	〃	〃	〃	消 防 本 部
	つばた 1 0 6	〃	〃	〃	消 防 本 部
	つばた 1 0 7	〃	〃	〃	消 防 本 部
	つばた 1 0 8	〃	〃	〃	消 防 本 部
	つばたぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	津 幡 分 団 車
	ちゅうじょうぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	中 条 分 団 車
	いのうえぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	井 上 分 団 車
	のせぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	能 瀬 分 団 車
	くらみぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	倉 見 分 団 車
	かさにぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	笠 谷 分 団 車
	たねぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	種 分 団 車
	かわいだにぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	河 合 谷 分 団 車
	くりからぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	俱利伽羅分団車
	はぎさかぶんだん 1 0 1	〃	〃	〃	萩 坂 分 団 車
	つばたけいび 1	卓上型移動局 5	N E C	〃	消 防 本 部
	つばたしき 1 0 1	可搬型移動局 10	富士通ゼネラル	〃	指 揮 車

(2) 119番着信状況

区分 月	一般電話（IP 電話含む）								合計	携帯電話								合計	総合計
	火災	救急	救助	その他災害	まちがい	いたずら	試験	その他		火災	救急	救助	その他災害	まちがい	いたずら	試験	その他		
1月	1	67	1	3	4	0	14	4	94	7	90	1	1	5	1	0	8	113	207
2月	0	65	0	0	0	0	15	0	80	0	74	0	0	3	0	0	3	80	160
3月	0	58	0	0	4	1	20	1	84	2	85	0	1	11	0	1	5	105	189
4月	0	42	0	0	2	0	7	0	51	0	55	1	0	8	0	0	3	67	118
5月	0	39	0	0	3	0	15	1	58	0	86	0	0	5	0	2	1	94	152
6月	0	42	0	2	1	1	15	1	62	0	61	0	0	8	0	0	10	79	141
7月	0	58	0	2	1	0	22	1	84	0	86	0	0	14	0	0	4	104	188
8月	1	52	1	1	3	0	12	2	72	0	88	2	2	9	0	0	13	114	186
9月	0	49	0	0	6	0	17	3	75	0	67	0	1	3	0	1	3	75	150
10月	0	58	0	1	4	0	18	1	82	3	73	1	1	7	0	0	5	90	172
11月	1	47	0	0	1	0	27	0	76	9	74	0	0	2	1	4	3	93	169
12月	1	43	1	2	1	0	19	4	71	1	68	1	1	9	0	0	8	88	159
合計	4	620	3	11	30	2	201	18	889	22	907	6	7	84	2	8	66	1102	1991

(3) 消防車両の現有状況

配 置 別	種 車 別 名	車 体 型 式 総 排 気 量 (cc)	製 作 所 名	購 入 年 月 日 購 入 価 格 (千円)
消 防 本 部 消 防 署	広 報 車 ス バ ル	5BA-SK9 2,498	ス バ ル	H 30.12.13 日本消防協会寄贈
	キャリイ軽自動車 スズキ	EBD-DA16T 650	ス ズ キ	H 29. 7.14 1,015
	普通消防ポンプ車 日 野	TKG-XZU685M 4,000	長 野 ポ ン プ (株)	H 29. 3.24 30,348
	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 車 II 型 日 野	SDG-GX7JGAA 改 6,400	〃	H 26. 3.10 株式会社グッドワン寄贈
	救 助 工 作 車 II 型 日 野	2KG-GX2ABA 5,120	帝国繊維株式会社	R 元.10. 3 94,932
	警 防 車 日 産	DBA-NT31 1,997	石 川 日 産	H 20. 1.17 4,648
	高規格救急自動車 トヨタ	3BF-TRH226S 2,693	ト ヨ タ	R 6. 2. 27 35,860
	〃	CBF-TRH226S 2,693	〃	H 29. 2. 1 31,860
	指 揮 車 トヨタ	3BF-TRH226K 2,690	(株) 本 田 商 会	R 2.12.18 13,145
	機 材 車 トヨタ	KG-LH178V 2,985	長 野 ポ ン プ (株)	H 13.12.25 4,357
	支 援 車 トヨタ	3BF-TRY230 1,990	シバウラ防災	R 7.3.28 総務省消防庁より貸与
団 本 部	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 車 II 型 トヨタ	BDG-XZU378 4,000	長 野 ポ ン プ (株)	R 5.10.17 金沢市消防局より譲渡
津 幡 分 団	普通消防ポンプ車 日 野	BDG-XZU378M 4,000	長 野 ポ ン プ (株)	H 23. 4.22 12,589
中 条 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	〃	H 28.12.10 11,232
井 上 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	〃	H 28.12.10 11,232
能 瀬 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	〃	H 30.12. 3 14,364
倉 見 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	〃	H 28.12.10 11,232
笠 谷 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	日本機械工業(株)	H 27.11. 6 11,664
種 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	〃	H 27.11. 6 11,664
河 合 谷 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	長 野 ポ ン プ (株)	H 27. 3.30 12,420
倶 利 伽 羅 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	〃	H 27. 3.30 12,420
萩 坂 分 団	〃 日 野	TKG-XZU685M 4,000	〃	H 26. 3.25 14,385

(4) 消防水利の現況

令和8年4月1日現在

種 別 管轄分団別	消火栓	防 火 水 槽			
		40～59 m ³	60～99 m ³	100 m ³ 以上	計
津幡分団	209	30 (3)	2	2	34 (3)
中条分団	215	41 (3)	1	4(3)	46 (6)
井上分団	61	17	2		19
能瀬分団	107	24 (2)		1	25 (2)
倉見分団	81	11	1 (1)		12 (1)
笠谷分団	57	16			16
種分団	40	7			7
河合谷分団	25	6			6
俱利伽羅分団	87	22 (1)			22 (1)
萩坂分団	53	23 (3)			23 (3)
合 計	935	197 (12)	6 (1)	7 (3)	210 (16)

()は私設

※基準外 20～39 m³防火水槽 13 基 (内私設 5 基)。総数 223 基 (内私設 21 基)

(5) 化学消火薬剤備蓄状況

令和8年4月1日現在

化 学 消 火 薬 剤 種 別	備 蓄 量
た ん 白 系 3 % 型	
た ん 白 系 6 % 型	
合 成 界 面 活 性 剤	900
水 成 膜 泡 消 火 薬 剤	2,7600
水 溶 水 液 体 用 泡 消 火 薬 剤	
第 1 種 粉 末	
第 2 種 粉 末	
第 3 種 粉 末	
第 4 種 粉 末	
合 計	2,8500

火 災 統 計

(1) 火災概況（前年との比較）

区 分		令和 6 年 (a)	令和 7 年 (b)	増減 (b) - (a)	
火災件数	計 (件)	6	3	△3	
	建 物	2	1	△1	
	林 野	0	0	0	
	車 両	1	2	1	
	船舶・航空	0	0	0	
	その他	3	0	△3	
焼損棟数	計 (棟)	2	3	1	
	全 焼	1	1	0	
	半 焼	0	0	0	
	部分焼	0	1	1	
	ぼ や	1	1	0	
焼損面積	建 物	床面積(㎡)	58	283	225
		表面積(㎡)	0	55	55
	林 野(a)		0	0	0
損害額	計 (千円)	2, 444	36, 287	33, 843	
	建 物	2, 113	35, 701	33, 588	
	林 野	0	0	0	
	車 両	320	586	266	
	船舶・航空	0	0	0	
	その他	11	0	△11	
罹 災	世 帯	1	3	2	
	人 員	4	3	△1	
死傷者	死 者	0	1	1	
	負傷者	0	0	0	

(2) 過去 5 年間の火災概況

年 次 区 分			令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
火災件数	計（件）		5	6	7	6	3
	建 物		4	5	5	2	1
	林 野		0	0	1	0	0
	車 両		1	1	0	1	2
	船舶・航空		0	0	0	0	0
	その他		0	0	1	3	0
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	58	3	454	58	283
		表面積（㎡）	62	1	12	0	55
	林 野(a)		0	0	44	0	0
損 害 額 （千円）			7,789	1,446	13,772	2,444	36,287
出 火 率 （件/万人） ※人口は1月1日現在の住民基本台帳による			1.3	1.3	1.9	1.6	0.8
火災原因	たばこ		1	1			
	こんろ						
	焼却炉						
	ストーブ				1		
	こたつ						
	ボイラー						
	煙突・煙道				1		
	排気管						
	電気機器						
	電気装置						1
	電灯・電話配線						
	配線器具						
	内燃機関						
	火あそび						
	マッチ・ライター						
	たき火						
	灯火						
	衝突の火花						
	取灰						
	火入れ					2	
	放火						
	放火の疑い					1	
	その他		4	4	1	1	
	不明				4	1	2
	調査中					1	

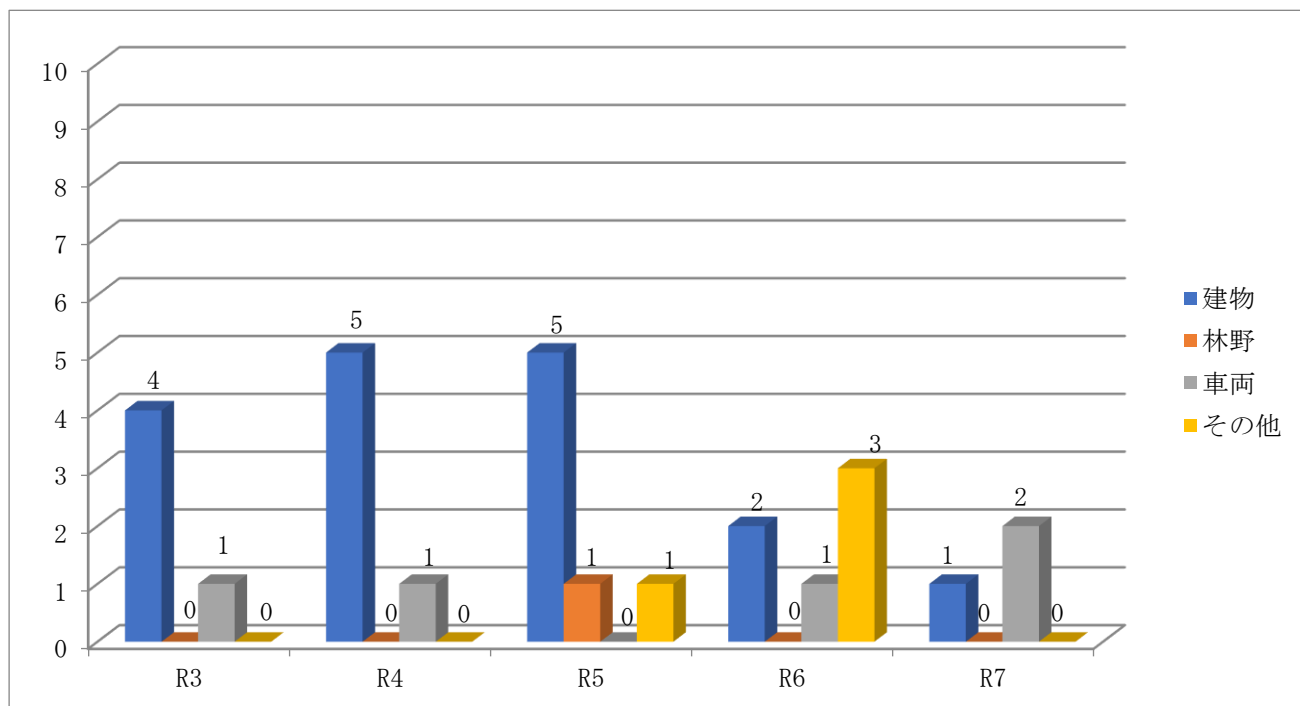
(3) 月別火災発生状況

区 分		計	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
火災 件数	計(件)	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	建 物	1	1											
	林 野	0												
	車 両	2	1									1		
	船舶・航空	0												
	その他	0												
焼損 棟数	計(棟)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 焼	1	1											
	半 焼	0												
	部分焼	1	1											
	ぼ や	1	1											
焼損 面積	床面積㎡	283	283											
	表面積㎡	55	55											
	林野(a)	0												
損 害 額	計(千円)	36,287	36,136	0	0	0	0	0	0	0	0	151	0	0
	建 物	35,701	35,701											
	林 野	0												
	車 両	586	435									151		
	船舶・航空	0												
	その他	0												
罹 災	世 帯	3	3											
	人 員	3	3											
死傷 者	死 者	1	1											
	負傷者	0												

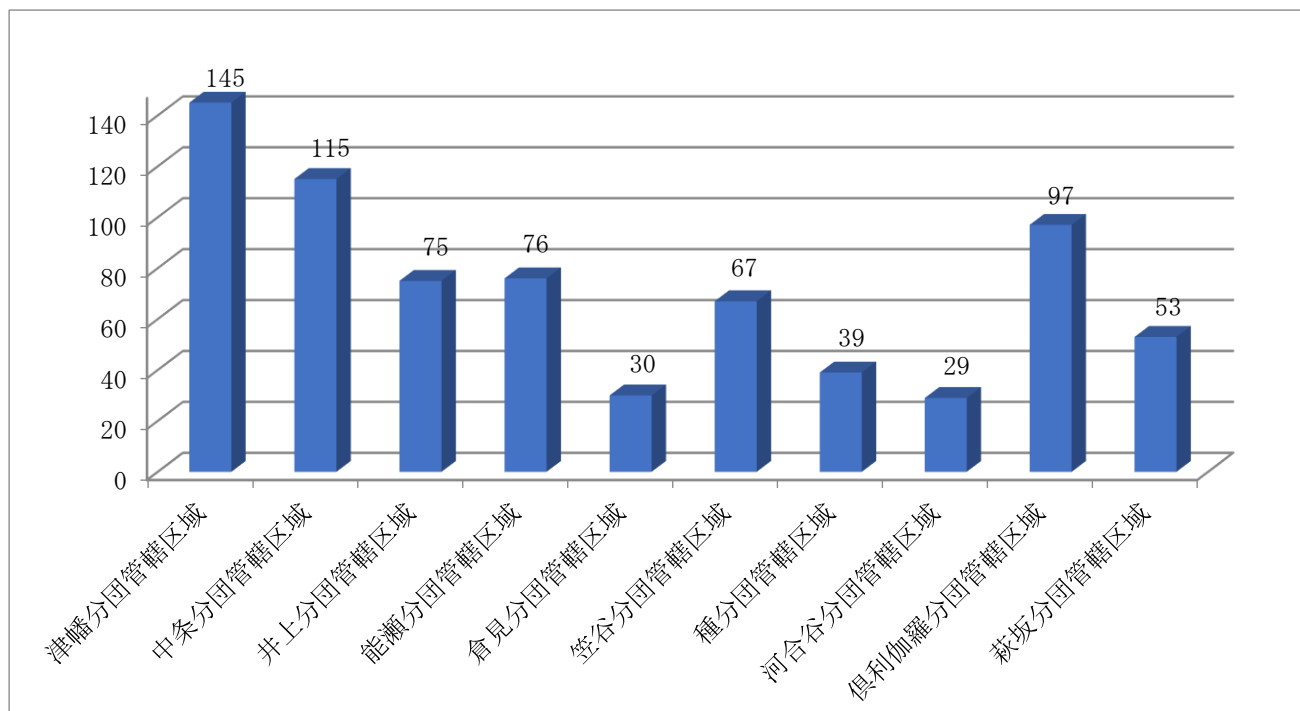
(4)時間帯、曜日別火災発生状況

曜日 時間帯	日	月	火	水	木	金	土	不明	計
0 時									0
1 時									0
2 時									0
3 時									0
4 時									0
5 時									0
6 時									0
7 時									0
8 時									0
9 時									0
10 時									0
11 時									0
12 時							1		1
13 時									0
14 時									0
15 時									0
16 時					1				1
17 時				1					1
18 時									0
19 時									0
20 時									0
21 時									0
22 時									0
23 時									0
不 明									0
計	0	0	0	1	1	0	1	0	3

(5) 過去 5 年間の火災件数の推移



(6) 昭和 30 年以降地域別火災発生件数



救急救助統計

◎救急出動の状況

令和7年中の救急出動件数は、1,511件（対前年比69件増、4.8%増）となっている。1日平均では4.1件の救急出動となる。

搬送人員は、1,384人（同43人増、3.2%増）となっている。町民の約27人に1人（前年約28人に1人）が救急隊によって搬送されたことになる。（参照（1））。

搬送の原因となった事故種別をみると、急病が979人（70.7%）、一般負傷が192人（13.9%）、その他が110人（8.0%）、交通事故が76人（5.5%）などとなっている。（参照（2））。

◎傷病程度別搬送人員の状況

令和7年中の搬送人員1,384人のうち、38%が入院加療を必要としない軽症（外来診療）傷病者及びその他（医師の診断がないもの等）となっている。（参照（3））。

◎年齢区分別搬送人員の状況

令和7年中の搬送人員1,384人の内訳を年齢区分別にみると、新生児・乳幼児が75人（5.4%）、少年が43人（3.1%）、成人が319人（23.0%）、高齢者が947人（68.4%）となっている。（参照（4））。

急病では高齢者669人（48.3%）、交通事故では高齢者32人（2.3%）、一般負傷では高齢者156人（11.3%）が最も高い割合で搬送されている。（参照（4））。

◎現場到着所要時間の状況

令和7年中の出動件数1,511件の内訳を現場到着所要時間（119番通報を受けてから現場に到着するまでに要した時間）別にみると、5分以上10分未満が1,072件で最も多く、全体の71%となっている。（参照（5））。

現場到着所要時間の平均は約7.5分（前年約7.5分）となっている。

◎病院収容所要時間の状況

令和7年中の搬送人員1,384人の内訳を病院収容所要時間（119番通報を受けてから医師に引き継ぐまでに要した時間）別にみると、30分以上60分未満が1,063人（77%）で最も多くなっている。（参照（6））。

病院収容所要時間の平均は約42.8分（前年約41.3分）となっている。

◎救助業務の状況

令和7年中における救助活動の実施状況は、救助活動件数11件（対前年比1件減、9.1%減）、救助人員（救助活動により救助された人員をいう。）12人（同3人減、20%減）である。（参照（7））。

事故種別をみると、建物等による事故が2人（18.2%）、交通事故が8人（72.7%）、機械による事故が1人（9.1%）、その他が1人（9.1%）となっている。（参照（7））。

※割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

(1) 救急概要（前年との比較）

区 分 \ 年 別			令和6年	令和 7 年	前年比増減
出 動 件 数	火 災		3	0	△3
	自 然 災 害		0	0	0
	水 難		0	0	0
	交 通 事 故		56	73	17
	労 働 災 害		18	16	△2
	運 動 競 技		9	5	△4
	一 般 負 傷		232	213	△19
	加 害		3	4	1
	自 損 行 為		6	5	△1
	急 病		976	1,080	104
	そ の 他	転 院	134	108	△26
		医 師 搬 送	1	0	△1
		資 材 搬 送	0	0	0
		そ の 他	4	7	3
	計		1,442	1,511	69
不 搬 送 件 数			107	134	27
搬 送 人 員			1,341	1,384	43
1 ヶ 月 平 均 出 動 件 数			120.2	125.9	5.7
〃 搬 送 人 員			111.8	115.3	3.5
1 日 平 均 出 動 件 数			4.0	4.1	0.1
〃 搬 送 人 員			3.7	3.8	0.1
1 日 最 多 出 動 件 数			11	10	△1

(2) 救急出動件数

事故種別 区 分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計
出動件数		0	0	0	73	16	5	213	4	5	1,080	115	1,511
不搬送件数		0	0	0	3	0	1	21	2	0	101	6	134
搬送人員		0	0	0	76	16	4	192	2	5	979	110	1,384
性 別	男	0	0	0	42	13	4	96	2	1	547	62	767
	女	0	0	0	31	3	1	117	1	4	524	48	729

(3) 傷病程度別搬送人員状況

事故種別 程度別	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
火 災	0	0	0	0	0	0
自 然 災 害	0	0	0	0	0	0
水 難	0	0	0	0	0	0
交 通 事 故	1	8	21	46	0	76
労 働 災 害	0	1	5	10	0	16
運 動 競 技	0	0	1	3	0	4
一 般 負 傷	1	56	62	73	0	192
加 害	0	1	0	1	0	2
自 損 行 為	0	0	5	0	0	5
急 病	22	104	465	380	8	979
そ の 他	1	27	68	12	2	110
計	25	197	627	525	10	1,384

(4) 年齢区分別搬送人員

事故種別 年 齢	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
乳幼児	0	0	0	3	0	0	8	0	0	63	0	74
少 年	0	0	0	10	0	3	8	0	1	21	0	43
成 人	0	0	0	31	14	1	20	1	4	226	22	319
高齢者	0	0	0	32	2	0	156	1	0	669	87	947
計	0	0	0	76	16	4	192	2	5	979	110	1,384

※年齢区分の定義

新生児：生後 28 日未満の者

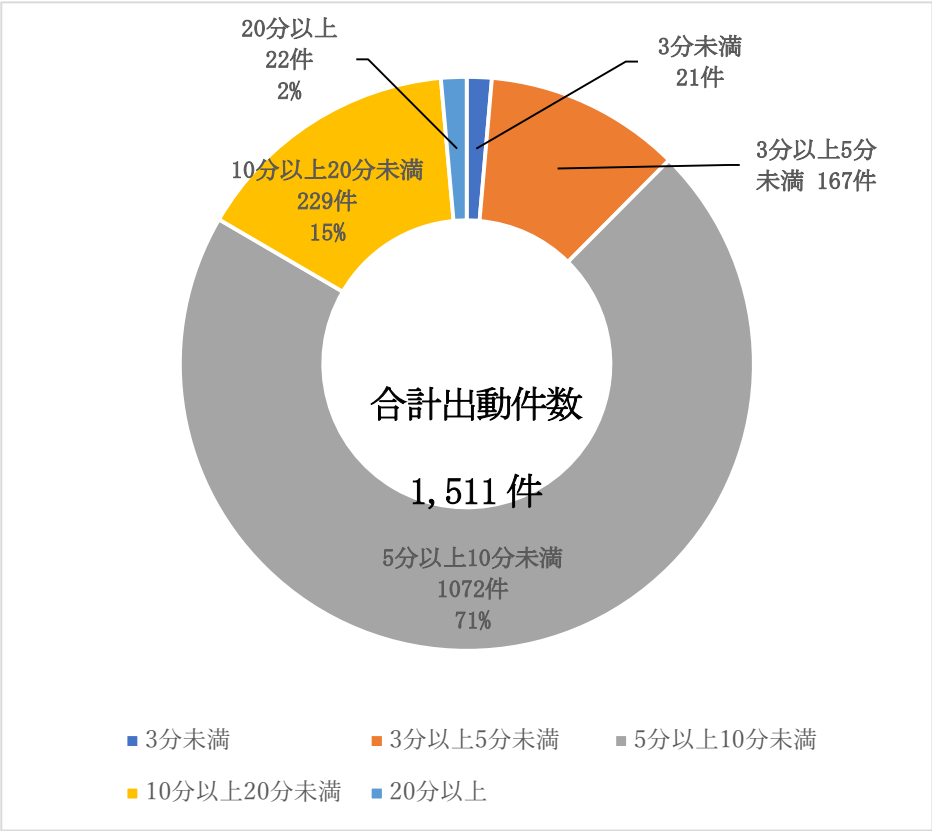
乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者

少 年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者

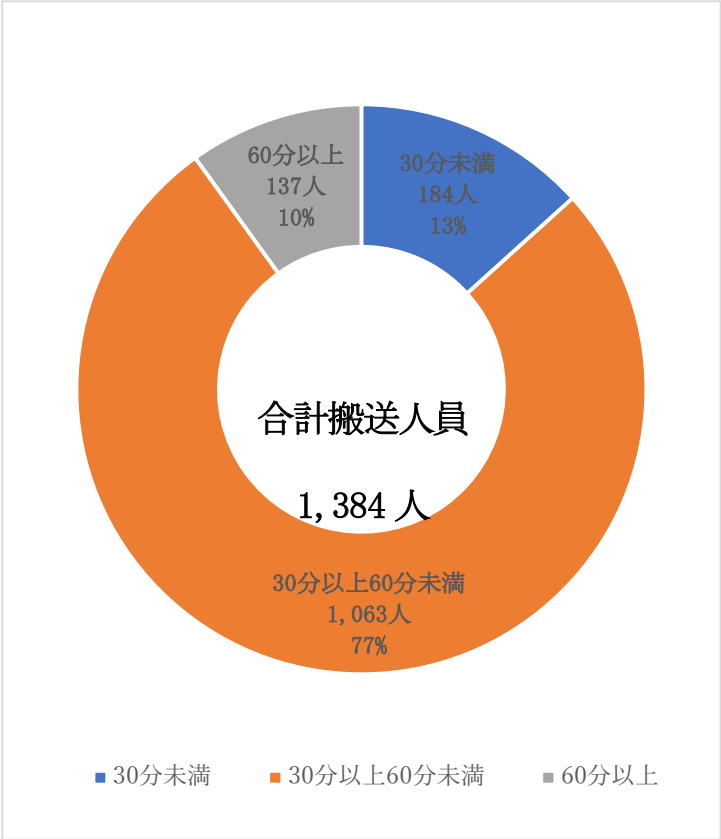
成 人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者

高齢者：満 65 歳以上の者

(5) 現場到着所要時間別出動件数(覚知～現場到着)



(6) 病院搬送所要時間別搬送人員(覚知～病院収容時間)



(7) 救助業務状況

事故別		区分	出動件数	救助活動 件 数	非 救 助 活動件数	救 出 人 員		
						男	女	合 計
前年比較	令和6年		15	12	3	8	7	15
	令和7年		15	11	4	4	8	12
火 災	6年		0	0	0	0	0	0
	7年		0	0	0	0	0	0
交 通 事 故	6年		4	3	1	4	3	7
	7年		8	7	1	4	4	8
水 難 事 故	6年		2	1	1	1	0	1
	7年		0	0	0	0	0	0
自然災害事故	6年		0	0	0	0	0	0
	7年		0	0	0	0	0	0
機械による 事 故	6年		1	1	0	0	1	1
	7年		1	1	0	0	1	1
建物等による 事 故	6年		6	5	1	2	2	4
	7年		3	2	1	0	2	2
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	6年		0	0	0	0	0	0
	7年		0	0	0	0	0	0
破 裂 事 故	6年		0	0	0	0	0	0
	7年		0	0	0	0	0	0
そ の 他	6年		2	2	0	1	1	2
	7年		3	1	2	0	1	1

消 防 団 関 係

(1) 消防団の沿革

- 昭和 29 年 3 月 31 日 津幡町、中条村、井上村、英田村、笠谷村の 5 町村が合併、同時に五町村、5 消防団を 1 消防団に編成し、ポンプ自動車 6 台、手挽ガソリンポンプ 2 台、団員 240 名を以って津幡町消防団が発足した。
- 昭和 29 年 5 月 16 日 羽咋郡河合谷村を編入合併と同時に河合谷地区に 1 ケ分団を置き 8 ケ分団となる。
- 昭和 32 年 2 月 1 日 旧倶利伽羅村と合併、同地区 2 ケ分団を編入し、10 ケ分団となり、ポンプ車 10 台定員 217 名に編成した。
- 昭和 44 年 3 月 27 日 消防団員定数条例を 164 名に改正
- 昭和 48 年 3 月 20 日 消防団員定数条例を 165 名に改正
- 昭和 56 年 3 月 25 日 消防団員定数条例を 166 名に改正
- 平成 10 年 4 月 1 日 消防団員定数条例を 176 名に改正(女性消防団員 10 名採用)
- 平成 21 年 1 月 1 日 消防団員定数条例を 181 名に改正(機能別消防団員 5 名採用)

(2) 消防団階級別団員定数

令和 8 年 4 月 1 日現在

階 級 別	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
団 員 数	1	3	10	10	13(1)	42(3)	102(5)	181(9)

以下（ ）内は女性消防団員数

(3) 団員の実員数

令和 8 年 4 月 1 日現在

階級 区分	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
団 本 部	1	3						4
女 性 消 防 団					1(1)	2(2)	4(4)	7(7)
機能別消防団							4(1)	4(1)
津 幡 分 団			1	1	3	4	6	15
中 条 分 団			1	1	1	4	9	16
井 上 分 団			1	1	1	4	9	16
能 瀬 分 団			1	1	1	4	7	14
倉 見 分 団			1	1	1	4	9	16
笠 谷 分 団			1	1	1	4	9	16
種 分 団			1	1	1	4(1)	7	14(1)
河 合 谷 分 団			1	1	1	4	4	11
倶利伽羅分団			1	1	1	4	9	16
萩 坂 分 団			1	1	1	4	7	14
計	1	3	10	10	13(1)	42(3)	84(5)	163(9)

(4) 団員の報酬

階 級 区 分	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員
報 酬（月 額）	13,500 円	8,500 円	6,800 円	5,000 円	4,600 円	4,100 円	3,800 円 機能別消防団員 1,900 円
水 火 災 出 動 報 酬	団 員 1 名 1 回当り 4,000 円 4 時間を超える場合 8,000 円						
警 戒 報 酬	団 員 1 名 1 回当り 3,500 円 4 時間を超える場合 7,000 円						
訓 練 報 酬	団 員 1 名 1 回当り 2,500 円						

(5) 団員階級別年齢

令和 8 年 4 月 1 日現在

階 級 年 齢	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
20 歳未満								
20 歳以上 25 歳未満							4	4
25 歳 " 30 歳 "							4	4
30 歳 " 35 歳 "						1	18	19
35 歳 " 40 歳 "					2(1)	7(1)	17	26(2)
40 歳 " 45 歳 "					1	8	11(1)	20(1)
45 歳 " 50 歳 "			1	3	4	14	7(1)	29(1)
50 歳 " 55 歳 "			7	4	6	5	6	28
55 歳以上	1	3	2	3		7(2)	17(3)	33(5)
計	1	3	10	10	13(1)	42(3)	84(5)	163(9)

(6) 団員の在職年数別調べ

令和8年4月1日現在

在職 年数	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満	20 年以上 25 年未満	25 年以上 30 年未満	30 年以上
163	22	33	31	25	15	19	18
うち女性	1	4	1	1		2	

(7) 消防団分団管轄区域名及び面積

分 団 名	管 轄 区 域	面 積
津 幡 分 団	加賀爪、庄、清水、津幡、横浜	5.86 km ²
中 条 分 団	南中条、北中条、潟端、太田、浅田、浅谷	7.86 km ²
井 上 分 団	川尻、中須加、五反田、中橋、湖東、井上の荘	7.58 km ²
能 瀬 分 団	舟橋、加茂、能瀬、領家、谷内、御門、御門出町、下矢田	10.10 km ²
倉 見 分 団	杉瀬、倉見、緑が丘	5.39 km ²
笠 谷 分 団	岩崎、田屋、七黒、鳥越、山北、蓮花寺、宮田、鳥屋尾、 簗月、大畠、蒔谷、笠池ヶ原、彦太郎畠、吉倉、八ノ谷、 市谷、大熊	13.20 km ²
種 分 団	上矢田、中山、種、小熊、池ヶ原、興津、菩提寺、平野	12.33 km ²
河 合 谷 分 団	上大田、下河合、上河合、瓜生、牛首、木窪	21.71 km ²
俱 利 伽 羅 分 団	竹橋、富田、刈安、越中坂、坂戸、上野、原、九折、 俱利伽羅、山森、下中、上藤又、河内	15.93 km ²
萩 坂 分 団	七野、東荒屋、明神、井野河内、大坪、下藤又、仮生、 舟尾、材木、大窪、常德、南横根、別所、朝日畑、相窪、 北横根、旭山	10.63 km ²
	計	110.59 km ²

そ の 他

(1) 女性防火クラブ軽可搬消防ポンプ等現有状況

令和8年4月1日現在

No.	女性防火クラブ	名 称	ポンプ型式	級 別	年 式	出力、その他
1	坂 戸	トーハツ	V 1 0 D	D1	S 61 8	2.8KW
2	寺 尾	ラビット	P 2 0 5 B	D1	S 63 8	3.2PS
3	東荒屋	トーハツ	V 1 0 F	D1	H 20 1	2.8KW
4	吉 倉	トーハツ	V 1 0 E	D1	H 4 8	5PS
5	緑が丘	トーハツ	V 1 0 F	D1	H 13 1	5PS

(2) 自主防災クラブ小型動力ポンプ現有状況

令和8年4月1日現在

ク ラ ブ の 名 称	名 称	ポンプ型式	級 別	年 式	出力、その他
津幡中央地区自主防災クラブ	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 7 7	8.6KW 11.7PS
	シバウラ	F T 4 1 0 M	B3	R 6 8	8.8KW 12 PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 7 7	8.6KW 11.7PS
	シバウラ	F T 4 1 0 M	B3	R 6 8	8.8KW 12 PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 3	8.6KW 11.7PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 11	8.6KW 11.7PS
中条地区自主防災クラブ	シバウラ	F T 4 1 0 M	B3	R 6 8	8.8KW 12 PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 7 7	8.6KW 11.7PS
	シバウラ	F T 4 1 0 M	B3	R 6 8	8.8KW 12 PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 3	8.6KW 11.7PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 11	8.6KW 11.7PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 11	8.6KW 11.7PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 5 11	8.6KW 11.7PS
英田地区自主防災クラブ	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 7 7	8.6KW 11.7PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 3	8.6KW 11.7PS
井上地区自主防災クラブ	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 3	8.6KW 11.7PS
笠井地区自主防災クラブ	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 11	8.6KW 11.7PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 5 11	8.6KW 11.7PS
河合谷地区自主防災クラブ	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 5 11	8.6KW 11.7PS
笠野地区自主防災クラブ	ラビット	P 3 0 3 B	C1	H 24 11	7.3KW 13 PS
	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 3	8.6KW 11.7PS
萩坂地区自主防災クラブ	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 4 11	8.6KW 11.7PS
刈安地区自主防災クラブ	トーハツ	V E 2 5 A	B3	R 5 11	8.6KW 11.7PS

(4) 幼年消防クラブの結成状況

令和8年4月1日現在

ク ラ ブ の 名 称	クラブ結成年月日				所 在 地	隊 員 数
中条東保育園幼年消防クラブ	S	59	8	1	津幡町北中条6丁目39	151
井上保育園幼年消防クラブ	S	59	8	1	津幡町字中橋イ55-1	188
寺尾保育園幼年消防クラブ	S	59	8	1	津幡町字越中坂61	34
津幡とくの幼稚園幼年消防クラブ	H	14	10	27	津幡町字潟端715-1	49
さくらこども園幼年消防クラブ	H	14	10	27	津幡町字潟端709	103
ちいろばこども園幼年消防クラブ	H	17	10	16	津幡町字南中条3号62	196
住吉こども園幼年消防クラブ	H	22	4	1	津幡町字庄口142	195
実生こども園幼年消防クラブ	H	25	4	1	津幡町字津幡口5-1	152
しいのきこども園幼年消防クラブ	H	31	4	1	津幡町字太田は157	174
のせこども園幼年消防クラブ	R	7	4	1	津幡町字領家イ5	145
計						1,387

(5) 子ども消防クラブの結成状況

令和8年4月1日現在

ク ラ ブ の 名 称	クラブ結成年月日				所 在 地	隊 員 数
加賀爪子ども消防クラブ	S	44	5	1	津幡町字加賀爪	55
舟橋子ども消防クラブ	S	58	8	4	津幡町字舟橋	19
倉見子ども消防クラブ	S	59	10	1	津幡町字倉見	6
清水子ども消防クラブ	H	3	7	5	津幡町字清水	21
計						101

(6) 女性防火クラブの結成状況

令和8年4月1日現在

ク ラ ブ の 名 称	クラブ結成年月日				所 在 地	隊 員 数
津幡町女性防火クラブ	S	56	12	15	津幡町字倉見	13
原女性防火クラブ	S	57	12	21	津幡町字原	21
寺尾女性防火クラブ	S	61	6	1	津幡町字越中坂	31
相窪女性防火クラブ	H	元	1	10	津幡町字相窪	6
東荒屋女性防火クラブ	H	元	1	10	津幡町字東荒屋	100
吉倉女性防火クラブ	H	2	4	1	津幡町字吉倉	14
緑が丘女性防火クラブ	H	10	7	24	津幡町字緑が丘	8
計						193

(7) 自主防災クラブの結成状況

令和8年4月1日現在

ク ラ ブ の 名 称	クラブ結成年月日				事 務 局
津幡中央地区自主防災クラブ	H	9	3	30	津 幡 公 民 館
中条地区自主防災クラブ	H	9	1	17	中 条 公 民 館
井上地区自主防災クラブ	H	9	3	8	井 上 公 民 館
英田地区自主防災クラブ	H	9	2	20	英 田 公 民 館
笠井地区自主防災クラブ	H	9	2	20	笠 井 公 民 館
笠野地区自主防災クラブ	H	9	3	22	笠 野 公 民 館
河合谷地区自主防災クラブ	H	8	11	20	河 合 谷 公 民 館
刈安地区自主防災クラブ	H	9	3	10	刈 安 公 民 館
萩坂地区自主防災クラブ	H	9	3	18	萩 野 台 公 民 館

令和 8 年津幡町防火標語

『火の用心 明るい未来を 守るため』

津 幡 町 消 防 本 部

〒929-0325 石川県河北郡津幡町字加賀爪ハ 109 番地 1

TEL 076-288-3000 FAX 076-288-5598

URL <https://www.town.tsubata.lg.jp/soshiki/41/>

E-mail shobousho@town.tsubata.lg.jp